

名古屋(男子)連覇・東北(女子)優勝

インカレ 2008 2009年3月20-21日 神奈川県南足柄市

木村佳司
上林弘敏



選手権男子リレーのスタート。1年間待ち続けていた舞台が始まった。

箱根の外輪山は深山幽谷。全日本大会と多日間大会として開催されたインカレ。

2009年3月20-21日 神奈川県南足柄市
日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル競技・リレー競技



表彰される名古屋大学

男子リレー結果

1	名古屋大学	2:20:21
	(松井健哉 寺村大 崎田孝文)	
2	新潟大学	2:33:29
3	東北大学	2:36:41
4	千葉大学	2:37:56
5	東京大学	2:48:45
6	東京工業大学	2:48:59

名古屋大学連覇

昨年の奈良インカレで接線から抜け出して優勝を果たした名古屋大学。その実力がホンモノかどうかは2年目となる今年にかかっていた。だが名古屋大学は1走の松井健哉でトップに出ると、そのまま2走の寺村大、アンカーの崎田孝文がどんどんリードを広げ、終わってみれば2位と13分差という大差をつけ圧勝した。名古屋大学の強さはホンモノだったことがここに証明された。

2位は新潟大学。これまで同大学の持つインカレ最高順位を更新した。3人のメンバーが安定して良い成績を残した結果だ。

3位は東北大学。層の厚さから見れば日本一と思える東北大学だったが、前日のミドル優勝者で1走の太田が大きなミスを生発して沈んでしまった。それでもメダル圏内まで盛り返してくるところが東北大学のすごいところだ。

箱根のトレインは難易度が高い。数々の大学代表が翻弄され、飲み込まれていった。3人繋いで安定した成績を出せた大学が上位に残ったようだ。



東京大学2走・太田から3走・林へ母校の名誉をかけ、全力を尽くす。魂と魂の闘ぎあうレースが観る者の心を熱くする。

女子リレー結果

1	東北大学	3:03:06
	(江幡禎子 本間理紗 阿部ゆかり)	
2	相山女子学園大学	3:06:18
3	日本女子大学	3:11:46
4	筑波大学	3:33:22
5	相模女子大学	3:42:29
6	東京農工大学	3:52:09

東北大学女子優勝

箱根の難しいトレインを舞台に女子は泥試合の様相となった。結果を見る限り、難易度設定が高すぎたような気がする。それだけコースプランナーの気持ちが入ったコース設定だったのだ

ろう。

そんなコースに翻弄される選手たちを尻目にリレーで安定した成績を叩き出す二人。ひとりには日本女子大学の松永真澄、もうひとりには東北大学の阿部ゆかり。抜きん出たエースの活躍は東北大15分のビハインドをひっくり返し、東北大学女子を優勝へと導いた。

松永率いる日本女子大学はエース松永が2走で2位まで順位を引き上げるが、アンカーで後退して3位となった。

昨年の優勝校・日本女子大学を上回ったのが相山学院女子大学。2走時点ではトップに立ち、最終的に2位。過去の大学最高順位を塗り替えた。



女子リレー優勝の東北大学



女子リレースタート

男子ミドル結果

1 太田貴大	0:31:09	東北 4
2 日下雅広	0:31:11	東北 4
3 片岡裕太郎	0:32:34	名古屋 3
4 千々岩瞳	0:32:51	東北 4
5 小見山斉彰	0:33:00	千葉 4
6 崎田孝文	0:33:03	名古屋 4

東北大学 大暴れ

リレーの前日には予選/決勝方式のミドル競技が行われた。決勝の結果を見る限り、ミドルは東北大学と名古屋大学のためにあっとも言える。それだけ両大学の充実振りがうかがえる。

ここまで連勝中の日下（東北大学）を破ったのは同じ東北大学の太田貴大だった。今まで同じ東北大学の日下、千々岩に隠れて目立たない存在だったが、今までよい成績を積み重ねてきた選手だ。これで一気に注目される選手となるだろう。

入賞者から在京大学、関西の大学の名前が消えたのも珍しい。



太田貴大（東北大学 4）ミドル優勝に輝く

女子ミドル結果

1 松永真澄	0:31:43	日本女子 4
2 阿部ゆかり	0:32:55	東北 4
3 青山由希菜	0:36:27	相山学院女子 4
4 永田有佳里	0:37:42	相模女子 3
5 新井宏美	0:38:13	新潟 2
6 本間理紗	0:38:18	東北 2



松永真澄（日本女子 4）ミドルでもリレーでも大活躍。

ミドルで見せた松永真澄

日本女子大学というトリレーの常勝校のイメージがあるが、今年はミドルで松永が優勝に輝いた。この難しい足柄のトレインに対応し、素早くそしてミスなく駆け抜けた結果だ。

最大のライバルであり、インカレ連勝中の京都大学・関谷はミドル決勝の第一コントロールでミス。最後まで諦めずにレースを続けたが7位に終わった。レース途中に負傷し顔面より流血しながらのフィニッシュとなった。

2位は松永のもうひとりのライバル、阿部ゆかりが入った。阿部は途中で3分近い大きなミスをしている。

インカレは日本の力の源

社会人オリエンテリング愛好家は減少しているが、学生オリエンティアの数も減少している。この件に関しては暗い話題が多いオリエンテリング界であるが、インカレの期間だけは暗い話題はない。インカレの盛り上がりは健在なのだ。

学生は全身全霊をインカレにぶつけ勝負する。そしてこれを支える運営役員がいる。かつて自分たちが燃え上がったインカレを後輩たちにプレゼントしようという強い意思がここにある。

来年のインカレを目指して、学生は普段の学生生活に戻る。4月になれば新入生歓迎の季節である。この素晴らしい競技を多くの後輩に引き継いで、一緒に走りたい強い思いが新入生歓迎のモチベーションとなる。

社会人の新規参入が少ない競技オリエンテリングにおいて、学生からの参入者は極めて貴重な存在だ。この者達が日本のオリエンテリングを盛り上げているのだ。

今の日本のオリエンテリングを引っ張っているのはこのインカレなのだ。間違いはない。



リレースタートの号砲時刻を待つインカレ実行委員長の高木

(木村佳司)